

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム ふなほ

日付 平成17年9月6日

特定非営利活動法人

評価機関名 高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会

LIFE SUPPORT推進グループ

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 在宅介護経験17年

評価調査員 在宅介護経験12年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「布紐の手編で座布団や敷物作り」「紙紐編みで敷物や装飾品作り」「小石に絵描き」「折紙」等、廃材利用をして一人ひとりの趣味を生かして、ホーム内の必需品や趣向品づくりに取り組んでいる。

建物の外側にウッドデッキがあり、机や椅子、外囲いを大工さんだった利用者が作った。外の空気に触れたり、喫煙場にもなっている。「ここ作の頑張られたそうですね。良いのが出来ましたねえ」とその利用者に話しかけると「わしゃ知らんぞ。何もしらんよ」これがグループホームの住人なんですね。

「私の住んでいた家は、今誰もおらんので心配なんだよ」と言っている人に、社長が伴って、その家にお泊りに行く。また落ち着いた生活を取り戻す。

誰かが、「これしたい」「あそこに行ってみよう」等々利用者の希望に職員は叶えてあげる努力をしている。18人の利用者と職員達は、共同生活を大切にしながら同時に、一人ひとりの希望や気持ちにきちんと対応してあげるよう頑張っている。今迄の生活リズムを出来るだけ生かして、これからの生活づくりもきちんと考えているグループホームである。

代表者は、この地域にグループホームの他にデイサービスを併設し、ヘルパーステーションと宅老所を営んで、地域の高齢者のための地域密着型の小規模多機能のケアを実践している。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

現在も利用者の希望や気持ちを叶えてあげる努力をしているが、利用者の認知度も進行して行くので、声掛け、寄り添いに加えてもっと利用者の気持ちや本音を知る術も探求して欲しい。記録類については別に問題は無いが、個人の記録や日々の記録そして全体の記録が系統だてて、誰にでも明瞭に分かるような様式やファイリングの方法等、将来のためにもう工夫して貰いたい。

身体機能維持のため歩行訓練など工夫しているが、全体として身体的に介護予防できるような行為を生活の中でもう少し積極的に進めて欲しい。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

車椅子で生活している利用者「早く歩けるようになって家に帰りたい」の希望を聞き入れ、歩行訓練用の平行バーを作ってあげ、本人はリハビリを一生懸命頑張っている積りの姿を見た。余り言葉にならないが、目を輝かせて歩き続ける男性がいる。一生懸命自分の気持ちを聞いて貰いたいと思っているのだろうか。人なつっこ一緒に歩いてくれる。

リビングルームの机の上では、好き好きに手伝いをしたり、自分の趣味の手工芸をしている。利用者のやりたいことを尊重し、自由気ままに生活をしているという感じを受けるが、職員は声かけしたり、寄り添ったりして、陰でしっかりと支えているので、利用者の動きが目立っている。やはり利用者が主人公である。

今日は、野菜の収穫に出掛けた。広い本格的な農園で地域の協力が作ってくれている。色々な野菜が豊富に栽培されていて、カゴ一杯収穫して帰ってくる。利用者は、元気な頃に返って笑顔で働いている。「これ、さっき取ってきたナスよ」と楽しい夕食だった。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

職員は、勉強会や研修を度々行い、職員全員の介護技術や意識レベルの向上を図っている。職員の意見ノートを設けて、管理者や職員同志の意志交流と代表者も見て運営面に生かす。家族会やアンケート等で家族の意見を聞き出す努力をしている。これらは今後のグループホームの向上に役立つだろう。

今年1年間の大きな行事予定が決まっており、家族や地域との交流をしながら、利用者が一番楽しむ。地域との交流も熱心で、ボランティアの訪問も多い。

利用者を中心に、代表者と職員同志の連携をベースに家族や地域と積極的な交流が積み重なって、地域に密着した高齢者ケアの拠点を育つことを期待している。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		

記述項目 グループホームとしてめざしているものは何か

『施設介護からの脱却を目指し、個人を尊重し、一人ひとりの生活にゆとりを持ち、その人らしい生活を支援する』『利用者のつくり上げてきた人生を尊重し、その人の全てを支えて、安心な生活を実現する』このような理念とか方針は、ごく当たり前で、どこにでもあるものだが、代表、管理者と職員が一体となって実際にやっているケアを見て、「これが」と思わせるグループホームを見せて貰った。

利用者との関わりは当然のことであるが、馴染みのある地域の中で色々な人と交流し、地域の人や家族を巻き込んでグループホームの方から地域へも還元しているという素晴らしい姿を見せて貰った。

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

広く明るい共用空間は木の風合いや緑があることで、利用者が自由でゆったりと落ち着ける雰囲気を作っている。玄関や外周は開放的で訪問者が気軽に入りやすい雰囲気となっている。居室は各人の馴染みや個性を活かし、その人が生活しやすいような場作りになっている。広い敷地や畑で、利用者同志や地域の人を交えた行事や交流ができてことは素晴らしい。

隣にデイサービスが併設されているが、趣味の共通する人が行き来して、利用者同志の交流も出来ている。

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		